

〈目的〉 フレアースカートの立体性能は、布地のドレープ性、剛軟性など素材特性に加え、パターン製図法などの設計特性及び着用者の体型などによって、フレアの美しさが決定されると思われる。今までは、スカートをモデル的に取り扱い素材特性とフレア効果の関係については検討されているが、実際のスカートでの研究は少ない。そこで、本報では、フレアースカートにおける丈とフレア効果との関係について着用実験を行ない検討した。

〈方法〉 1) 試料として、厚さ、剛軟度の異なる綿ブロード、羊毛フラノの平織2種を選んだ。 2) スカートは、同心円製図法^{*}により、4枚はぎフレアースカートを作製した。スカート丈は、ミニ、ミモレ、ロングの3段階とした。フレア分量(すそ廻り寸法)は、各スカート丈ともに一定とし、胸囲寸法の4倍量と規定した。縫製条件は一定とし同一人が作製した。 3) 着衣基体は、婦人用人台1体、被験者3名(胸囲寸法の異なるタイプ)を選んだ。 4) フレア効果の測定方法としては、試作の装置を考案し、スカートのすそ曲線をプロットし、それをもとにその断面積、液高及び液高の変動率等を求めた。

〈結果〉 1) フレア分量を一定にして、スカート丈を変化させた場合、断面積、液高ともに大差なく、液高の変動率に差異が認められた。 2) 素材間の差は、剛軟度の大きい方が断面積、液高ともに大の傾向が認められた。 3) 胸囲寸法の等しい人台と被験者間の比較では、被験者着用の方が断面積、液高ともに大きい傾向である。

* 石毛；衣生活研究 Vol. 7 縫製の科学 ② (1980)